

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろタン通信



2021 年 1 月 18 日 広報センター No. 37

2021 年の新春号です。2019 年には NO.28 から NO.33 まで 6 号発刊した「ふろタン通信」ですが、2020 年は先が見えないパンデミック！という見出しで 4 月に発刊した NO.35 以降すべての行事が止まったままで、遅れて開催した令和 2 年度総会の報告を載せた 7 月の NO.36 を最後に 1 年間で僅か 3 号の発刊で終わっていました。

今年は正月 7 日に 1 都 3 県緊急事態宣言が出て、さらに厳しい自粛ムードが当分続きそうですが、活動を再開できる日を目指して「ふろタン通信」は皆さんから寄せられた情報の発信を続けていきます。

◆ホームページのふろタン技研コーナーの活用

昨年 4 月に出された最初の緊急事態宣言の時、通信 NO.35 で外出禁止の引き籠り生活の時間を活かして「ふろタン技研コーナー」への研究レポートの投稿を呼びかけ幾つかのレポートが届きました。今回の自粛生活でも明るい未来につながる活動の提案レポートなど引き続きよろしくお願いします。

◆「ふろタン通信」バックナンバーコーナー

ホームページの NEWS 欄の下に掲載している「通信」のバックナンバーコーナーのスタートは、「ふろタン通信」でなく「渡り鳥通信」になっています。2013 年 3 月の最初のピクトリア山登山は、UR 都市機構のワンダーフォーゲル同好会の設立 40 周年記念登山だったからです。

「ふろタン通信」第 1 号の発行は 2014 年 2 月 28 日、NPO 法人設立手続き中の発行でトップ記事の見出しは「3 月 14 日ピクトリア山現地調査隊出発！」になっています。当初の会員メンバーを載せて紹介しています。正会員は 11 人の発起人メンバーと広報担当のサンネットの山本さん、個人賛助会員はアースウオッチジャパンの安田さん一人、団体賛助会員はピースインツアーとアルテップとプラディアソシエイツの 3 社です。

第 1 号の締めの記事をそのまま載せてみます。

□寄付金ありがとうございました。

発起人メンバーの安原さんから「広報活動の費用に」と 3 月 11 日に三回忌を迎える勲さんとの“ご夫婦での寄付金”をいただきました。



右の写真は、今回の調査活動資料「公園の登山道」で日本の国立公園紹介として載せている「尾瀬ヶ原(1985)」。

尾瀬ヶ原の木道の先頭を歩いている今も登山ガイドを続けている発起人メンバーの高田さんと話しているのが安原勲さん、その後ろを歩いているのが安原昭子さんです。「ふろタン工房」の発起人の一人でもあり、発足時から 7 年間駒場東大前のご自宅を「ふろタン工房」の本部として使わせていただいていたのですが、昨年末 12 月 20 日にお亡くなりになりました。コロナ禍で葬儀もままならず 23 日代々幡斎場での納骨式でのお見送りにになりました。**心からご冥福をお祈りいたします。**穏やかな世の中が戻った時「ふろタン工房」で偲ぶ会を行いたいと考えております。

◆本の中で現場見学「公園の登山道」

ワンゲルメンバーが尾瀬ヶ原を歩いている写真は「公園の登山道」の裏表紙に載っています。この小冊子は、山の自然を守り育てることの大切さを子供たちが学ぶようにと飯能の自然回廊の活動を紹介しながら UR ワンゲル同好会（石原・高田・鶴見）が執筆し、ふろタン工房設立準備室が発行したもので、日本語ミャンマー語併記で 2013 年の現地調査隊（赤川隊長）がナマタン国立公園事務所に届けました。（現地で行った意見交換会の様子などホームページの**ふろタン年表コーナー**NO.2 に詳しく載っていますのでご覧ください）

「公園の登山道」のミャンマー語訳を担当してくれたのが、モーココさんと佐野貴美代さん。ふろタン工房の情報交換会などで訪れている恵比寿のミャンマー料理店「びるまの堅琴」の共同経営者のお二人です。

いつもミャンマーの最新の社会状況から映画の情報まで色々と伝えてもらっています。

2017 年 9 月の第 8 回ふろタンインタビューにも登場いただいて、《びるまの堅琴》で「**ビルマの堅琴**」という変わったテーマで「昭和」の林茂雄さんと楽しく話し合いました。**ふろタンインタビューコーナー**もご覧ください。

ふろんていあタウン工房の 2021 年からの新本部は**びるまの堅琴**です。

渋谷区恵比寿 2 - 8 - 13 アクセスビル 1 階
03-5420-1686



雨ニモマケズ 風ニモマケズ 新型コロナニモマケズ 丈夫ナカラダヲモチ 慾ハナク 決シテ曠ラス イツモシツカニワラッテヤル サウイフふろタン人ニ ワタシハナリタイ/ケンジ